

フランクフルト市とのパートナー都市提携について

横浜市は、交流目的と期間を定めた「パートナー都市交流」を推進しています。今回、7都市目となるパートナー都市として、フランクフルト市と提携します。

1 提携都市

フランクフルト市（ドイツ）

- 【正式名称】フランクフルトアムメイン市
- 【人口】68 万人 【面積】248.3km²
- 【市長】ペトラ・ロート（95 年～）第 3 期
- 【国際空港】欧州 3 位、世界 9 位（航空旅客数）
- 【都市間関係】リヨン、プラハ、カイロなど 14 都市と関係



2 交流分野

これまで特に交流実績を積み重ね、今後も実質的交流が可能な経済、地球温暖化対策及び文化芸術創造都市の 3 分野とします。

交流分野	今後の主な取組	参 考	
		フランクフルト市の特徴	これまでの主な交流実績
経済	企業誘致、市内企業海外ビジネス支援、観光客誘致における相互協力	ハブ空港を抱え、金融の中心地であるとともに製造業などの企業が集積するビジネスセンター	H18(2006) フランクフルト企業(自動車部品)横浜進出 H22(2010) 横浜企業(エンジンリング)がフランクフルト進出
地球温暖化対策	温暖化対策のため先進施策やノウハウ等の情報交換、連携	高エネルギー効率の建築物の取組が特徴的。都市間のネットワークを積極的に活用	H22(2010) 『気候変動共同宣言』への参加 - 温暖化防止に向けて相互協力
文化芸術創造都市	創造都市として相互発展を目指しイベント実施、広報、関係者交流等の相互支援。観光客誘致における相互協力	メイン川沿いに美術館・博物館が立ち並ぶ。広告企業などの創造的産業が集積	H21(2009) 横浜クリエイティブシティ国際会議にフランクフルト市副市長参加 H23(2011) フランクフルト・グローバルビジネスウィークに横浜市参加・PR

3 交流期間

上記 3 分野における交流期間は 3 年間。変更が必要な場合 3 年ごとに見直し

4 協定文書

裏面の「横浜市とフランクフルトアムメイン市との協力協定（案）」のとおり

5 提携時期

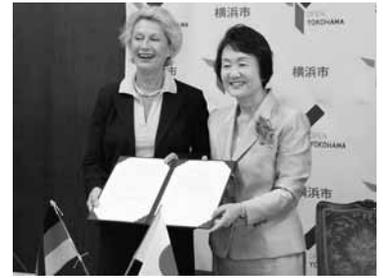
平成 23 年 10 月上旬（フランクフルト市長来浜時）に協定締結を予定

裏面あり

6 提携の背景

(1) 事務所開設以来の交流

両市は、平成 9(1997)年に横浜市がフランクフルト市内に事務所を開設以来さまざまな分野で交流を深めてきました。平成 22(2010)年 9 月にはペトラ・ロート市長が横浜を訪問し「都市間関係強化覚書」に調印しています(右写真)。



都市間関係強化覚書に調印した両市長(H22.9)

(2) 日独交流 150 周年

平成 23(2011)年は日独交流 150 周年に当たります。横浜が記念事業の中心的な場所となり、市民交流も始まっています。

これを契機としてフランクフルト市と提携を行うことで、横浜を中心とした日独市民交流の動きを拡大できると考えます。将来に向かって日独交流をリードし、国際都市横浜の力を一層発揮していきます。

日独交流 150 周年 (H23(2011)年)

オイレンブルク伯爵率いるプロイセンの東方アジア遠征団が江戸幕府と修好条約を締結してから 150 年。友好関係を祝うため日独でさまざまな記念行事が開催。横浜は、駐日ドイツ連邦共和国大使館と緊密に連携し、開幕記念式典など 150 周年記念行事の中心的な場所になっている。また、これを契機に市民団体「横浜日独協会」が新たに設立されたほか、フランクフルトへの横浜高校生の留学が今後予定されるなど、市民交流が活発化。

<横浜関連の主なイベント等>

H22(2010)

9 月：独客船横浜寄港、10 月：開幕式典(ドイツ学園)、11 月：ドイツ映画祭横浜開催

H23(2011)

5.21~7.31：写真展(新聞博物館)、8 月：高校生フランクフルト留学(予定)

10 月上旬：ロート市長来浜(予定)

11 月上旬：ジャパンウィーク、横浜企業誘致セミナー実施(フランクフルト)(予定)

7 提携により期待される効果

市・関係機関による横浜への便宜・優遇(横浜への企業誘致に向けた協力等)、アジア・欧州それぞれの地域での温暖化対策・創造都市の取組アピールなど、相互に実利ある交流、実質的效果が期待できます。

(横浜市とフランクフルトアムメイン市とのパートナー協力協定(案)抜粋)

- 1 横浜市(日本国)とフランクフルトアムメイン市(ドイツ連邦共和国)は、日独交流 150 周年の年において、友好的連帯及び相互利益に向け今後協力していくことを決定する。両市は、良好な日独関係に共に貢献していく目的を希求する。
- 2 この努力のなかで、横浜市とフランクフルトアムメイン市は、特に両市が関心をもつ分野である
経済 地球温暖化対策 文化芸術創造都市
において相互に交流をし、両市の発展に貢献していくことを取り決める。この交流においては、一方の都市の専門的知見、解決方法、ネットワークを適宜もう一方の都市が活用できるよう相互に協力する。
- 3 両市は、上記分野をこの協定発効の日から 3 年間の重点交流テーマとし、どちらか一方の都市が期間内に協力分野の見直しについて申し出を行わない限り、3 年ずつ自動的に継続・更新し、以降この例による。また、その他の交流については、両都市がこの協定を基本としながら必要に応じて、相互の合意で取り決める。
- 4 さらに、可能な限り両市の市民社会、特に若い世代の協力を目指す。
- 5 この協定は、署名をもって有効とし、期限は定めない。日本語及びドイツ語の二つを正本として作成する。それぞれの都市は、日本語及びドイツ語の正本を受け取る。

横浜市の姉妹・友好都市、パートナー都市

横浜市は、世界の平和と発展に貢献する国際都市を目指し、海外都市との交流を推進しています。

1 姉妹・友好都市

幅広い分野にわたる交流

都市名	提携年月日	最近の主な交流
サンディエゴ（米国）	S32(1957)10.29	大学間の連携、市民団サンディエゴ訪問
リヨン（フランス）	S34(1959)4.7	合唱団横浜公演、スポーツ交流
ムンバイ（インド）	S40(1965)6.26	ムンバイ行政長官横浜市議会演説、シティネット
マニラ（フィリピン）	S40(1965)7.1	高校生マニラ訪問、横浜でのマニラPR
オデッサ（ウクライナ）	S40(1965)7.1	市民団オデッサ訪問、横浜でのオデッサPR
バンクーバー（カナダ）	S40(1965)7.1	高校間の姉妹交流、図書交流
上海（中国）	S48(1973)11.30	物産展・展示商談会出展、図書交流、語学研修
コンスタンツァ（ルーマニア）	S52(1977)10.12	市民団コンスタンツァ訪問、歌手来浜コンサート

2 パートナー都市

交流テーマ、期間を定めて交流

都市名	提携年月日	最近の主な交流
北京（中国）	H18(2006)5.17	芸術家横浜滞在、観光関係者視察受入
台北（台湾）	H18(2006)5.22	羽田国際化(直行便就航)高校生バスケット交流、芸術家横浜滞在
釜山（韓国）	H18(2006)6.26	羽田国際化(直行便就航)シティネット、APEC協力
ホーチミン（ベトナム）	H19(2007)10.23	駐日経済事務所横浜開設、水道技術交流
ハノイ（ベトナム）	H19(2007)11.16	貿易大学留学生市立大学受入
仁川（韓国）	H21(2009)12.23	環境関係講師派遣、経済代表団受入、新聞社交流